**聖霊降臨節第４主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年6月18日**

**「教会入門」**

**詩編133編1節**

**133:1 【都に上る歌。ダビデの詩。】見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。**

**使徒言行録2章37～47節**

**2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。**

 **2:38 すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。**

 **2:39 この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」**

 **2:40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。**

 **2:41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。**

 **2:42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。**

 **2:43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。**

 **2:44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、**

 **2:45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。**

 **2:46 そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、**

 **2:47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。**

**皆さんは今日諏訪教会にどこから入ってこられたでしょうか。恐らく全員が玄関から入ってこられたと思います。まさかどこかの窓から入ってこられた方はいないでしょう。教会の玄関、それはつまり教会の門です。教会の門から中に入ってこられたのです。ですから教会入門なのです。**

**私たちは入門と聞くと何かの学びを始めることであり、初心者向けの手引書のことを入門書と呼ぶ、その入門を思い浮かべます。ですから「教会入門」と聞いても教会初心者や求道者のために書かれた教会についての手引書のことを思い浮かべますし、実際にそういった入門書はたくさん出版されています。**

**今日の礼拝後に「シオン会」が行われます。先月約3年ぶりに再開したシオン会で今後のテキストを皆で選びました。良い本ばかりで選ぶのに困りましたが最終的には教会について基本的な事から学んでいこうということで井ノ川勝先生が書かれた『信仰生活の手引き　教会』に決まりました。この本は確かに教会について初心者向けに書かれた手引書ではあるのですが、井ノ川先生が最初の方で書かれていますようにいわゆる入門書ではありません。この本を読んだ人が教会の門を入っていただきたい。「教会への入門」をして欲しいという切なる願いを持って書かれたものです。そしてその教会は教会の会堂という建物の事ではなくて、生けるキリストの体なる教会のことです。教会が私たちの人生の中心に立ち「無くてならぬもの」となる、つまり「教会の入門」です。それはすなわち生けるキリストの体である教会に繋がって欲しい、教会に繋がって救われた恵みの中を歩んでほしい、その願いを祈りを込めて書かれた本なのです。私はこの本を共に読み恵みを分かち合えることをとても楽しみにしています。**

**先ほど読んでいただいた聖書箇所にはまさに「教会入門」した3,000人ほどの人々のことが描かれています。ペトロが聖霊に満たされて語ったイエス・キリストの十字架と復活と昇天の出来事が他人事ではなく自分事になったのです。イエスはキリスト、救い主でありこの私を罪から救うために十字架に掛かって死んでくださった、いやイエス様を十字架に掛けたのは他でもないこの私なのだということに「大いに心を打たれて」気づかされたのです。そして洗礼を受け教会の仲間に加わったのです。「教会入門」したのです。**

**42節にはこのようにあります「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」今教会の群れに加えられた人々、教会に入門した人々は、ひたすらイエス様が教えてくださった教えである使徒たちの教えを守り、互いに仕えあう愛の交わりをなし、パンを裂いて一緒に食事をし、熱心に祈っていたというのです。**

**これがペンテコステに誕生した最初の教会の姿です。その姿をより具体的に記したのが43節から47節です。ここを読むとなんと美しい教会の姿かと思います。ここにあるのは一言で言うと「愛」です。神への愛と隣人愛に満ちた愛の教会の姿が描かれているのです。財産のある者が財産や持ち物を売って、そのお金を必要に応じて分け合い、教会の中の貧しい者を支えるのです。すべての物を共有していたというのは、私有財産を認めないのではなく、自発的に進んで貧しい者、小さくされた人々を助けるのです。強いられてするのではありません。イエス様の十字架の死と復活によって罪赦され、救われた、こんな私がイエス様の愛に応えてできることは何か、救われた喜びの愛によって小さな者を助けるのです。それは他にも病や苦しみ悲しみなどお互いに助け合い、支え合い、思いやりの心が満ちている。そして教会は心を一つにして神様を礼拝し、祈り、食事をし、讃美をするのです。まるで神の国が実現しているかのような理想的な教会の姿がここに描かれているのです。**

**そして、このような教会の姿を見た人はどんな反応をしたかと言いますと、47節に「民衆全体から好意を寄せられた」とあります。「なにかわからないけど教会ってよさそう」「私も行ってみようかな」と周りの人たちは思ったのです。「好意を寄せられた」の「好意」という言葉は英語で恵みを意味する「グレース」の元になった言葉です。互いに支えあい、助け合う、神への愛と隣人への愛に満ちた教会の姿は、教会だけでなく教会の周りにも恵みを与えたのです。その結果、イエス様を信じて救われて教会の群れに加えられる人、教会に入門する人が日々与えられ、教会はますます人が増えて成長していったのです。**

**そして興味深いのが47節の最後に「一つにされたのである」と書かれていることです。教会はどんどん人数が増えて成長していっても「一つ」なのです。私たちの周りの教会以外の集まりを考えてみますと、例えば、会社にしても何かのサークル活動にしても、最初人数が少ない時は同じ思い、同じ志を持ち、同じ方向に向かって一つになっています。しかし、どんどん人数が増えていくといろんな考えを持った人が参加をしてきます。それは当然のことです。でも、そうするとどうなるかと言いますと、最初の思い、最初の志がだんだんと違う方向に進んでいってしまいます。それでもきちんと軌道修正をして最初の思い、最初の志を大切にしていけばいいのですが、人数が増えていくとそれはなかなか難しいのです。やがてグループができたり、意見が対立して分裂してしまうのです。**

**けれども、最初の教会は人数がどんどん増えても組織として大きくなってもバラバラにはならなかったのです。むしろどんなに人数が増えようが教会は一つであったのです。一つの教会です。人数が増えても教会が最初の思いから異なってバラバラの方向を向いて好き勝手なことをしているのではなくて、教会はますます「一つ」なのです。**

**それはどうしてかと言いますと、47節に「主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」とあるからです。イエス様を信じて救われる人を与えて下さり、教会入門する人を日々与えて下さるのが主イエス様だからです。教会の人数が増えて成長しバラバラになることなくなお一つにしてくださるのが主イエス様だからです。私たち人間の力で一つにし続けよう、同じ方向を向いてバラバラにならないように軌道修正しようと努力するのではなくて、主イエス・キリストが教会の中心であり、また教会の頭として豊かにご支配して下さるからこそ教会は一つであり続けることができるのです。**

**この最初の教会は2000年前の単なる理想的な姿でしょうか。昔の教会はすごかったでも今の私たちはという問題でしょうか。私は決してそう思いません。確かに現実の教会はどこの教会でも罪赦された罪人の集まりですから何かしら問題を抱えながら歩んでいます。最初の教会もこの後様々な問題が出てきます。その度に教会は心を一つにして祈りを合わせて問題を乗り越えていきました。それは何よりも教会は主イエス様が教会の頭であり、イエス様によって教会は常に一つにされているという信仰があるからです。**

**だからこそ、私たちは生まれも育った環境も違っても、クリスチャンホームで育っても、キリスト教とは無縁の家庭で育っても、性格が違っても、ものの考え方が違っても、職業が違っても、年齢が違っても、健康で丈夫でも、病を抱えながら歩んでいても、そういう色んなものが異なっていても教会に招かれている私たちはイエス様の十字架と復活の愛によって一つなのです。常にイエス様が教会の中心にいてくださるのです。私たちは共に礼拝をしてイエス様の十字架と復活の愛を分かち合うのです。罪赦された者の喜びを周りの人々に伝え、証しをしていくのです。**

**「教会入門」イエス様の十字架と復活による愛が決して他人事ではなく、自分の事として、**

**この罪深い私を愛してくださり十字架に掛かって死んでくださり復活して下さり私を罪から救ってくださった、その事実に気が付いて教会に繋がる人が一人でも多く与えられますように。**